

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 25-003

PDCA	事務事業名	J R半田駅前土地区画整理事業	部課等名	建設部 市街地整備課 中心市街地担当	担当	近藤佑也	
					内線等	455	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち 節： 第2節 都市基盤の整備 基本施策： 1. 市街地整備 単位施策： (1) 中心市街地の整備 個別施策： ① J R半田駅前土地区画整理事業の推進					
	根拠法令等	土地区画整理法、知多都市計画事業JR半田駅前土地区画整理事業施行条例					
	対象・目的	J R半田駅前地区において、J R武豊線の高架と幹線道路の整備、土地区画整理事業を一体的に行うことで、東西交通の円滑化、安心・安全な都市基盤の整備や都市機能の集積により、まちなか居住の推進及び賑わいと魅力ある中心市街地の再生につなげる。					
	目的を達成するための手段・活動内容	令和3年度からの高架本体工事着手に合わせ、令和2年度中に仮換地指定を行うとともに、建物移転、宅地造成工事等を行うために地権者との合意形成を図る。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①公共用地取得面積	856.8	1,150.2	2,397.1	m ²	
		②					
		③					
		事業費	52,568	72,662	182,436	千円	
		人件費	12,056	22,281	24,026	千円	
		総事業費	64,624	94,943	206,462	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
	①公共用地取得面積当たり	75	83	86	千円/m ²		
	②						
	③						
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①公共用地取得率	実績値	80.6	95.0	100.0	%
		目標値	80.1	90.3	100.0		
		②	実績値				
目標値							
③		実績値					
目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない		
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない	
	事業の評価・課題	B					
		仮換地指定前までに事業で不足する公共用地（減価補償金相当）を全て確保する目標に対して、令和元年度は全ての公共用地を確保し、目標の100%を達成することができた。また、まちなか居住や賑わいと魅力ある中心市街地の再生に繋げるため、地権者と合意形成を図りながら換地設計を進めてきた。引き続き、地権者との交渉を密に行いながら、令和2年度に仮換地指定を行うとともに建物移転、宅地造成工事、地区計画の指定等を進める。また、事業を計画通り実施するため、国の交付金など事業費を確保する必要がある。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	拡充推進				
		令和2年度は、賑わいと魅力ある中心市街地の形成につながるように地権者の意向を確認しながら仮換地指定を行う。建物移転率を向上させるため、地権者との交渉を密に行う。また、駅前に相応しい土地利用及び景観形成を進めるため、地区計画の指定や景観計画の改定を行う。併せて、魅力ある中心市街地とするため、まちづくり検討委員会及び作業部会を開催し、地区の特性を活かした将来のまちづくりの整備方針等の取りまとめを行う。					
		令和2年度の目標	成果指標			目標値	単位
			①建物移転率			26.0	%